

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行	
暗号資産の売買等に関するご説明 (契約締結前交付書面) 現行通り		暗号資産の売買等に関するご説明 (契約締結前交付書面) 省略	
2021年9月 SBI VC トレード株式会社		2021年5月 SBI VC トレード株式会社	
1.1～2.2 現行通り		1.1～2.2 省略	
2.3 図表の取引形態～買付余力・売却可能数量 現行通り		2.3 図表の取引形態～買付余力・売却可能数量 現行通り	
主な取扱通貨ペア	日本円（以下「円」といいます。）での下記暗号資産の購入・売却を取り扱います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビットコイン（以下「BTC」といいます。）</li> <li>・エクスペアールピー（リップルの暗号資産名です。以下「XRP」といいます。）</li> <li>・イーサリアム（以下「ETH」といいます。）</li> <li>・<u>ビットコインキャッシュ（以下「BCH」といいます。）</u></li> <li>・<u>ライトコイン（以下「LTC」といいます。）</u></li> <li>・<u>チェーンリンク（以下「LINK」といいます。）</u></li> <li>・<u>ポルカドット（以下「DOT」といいます。）</u></li> </ul> （以下、各名称はそのまま通貨単位としても用います。）  外国通貨による暗号資産の購入・売却は取り扱いをいたしません。	主な取扱通貨ペア	日本円（以下「円」といいます。）での下記暗号資産の購入・売却を取り扱います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビットコイン（以下「BTC」といいます。）</li> <li>・エクスペアールピー（リップルの暗号資産名です。以下「XRP」といいます。）</li> <li>・イーサリアム（以下「ETH」といいます。）</li> </ul> （以下、各名称はそのまま通貨単位としても用います。）  外国通貨による暗号資産の購入・売却は取り扱いをいたしません。  また、上記以外の通貨ペアを取り扱う場合は、別途定めるものとします。

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後					現行						
<p>また、上記以外の通貨ペアを取り扱う場合は、別途定めるものとします。</p>					<p>3.1～5.1.3 ② 省略</p>						
3.1～5.1.3 ② 現行通り					③ 注文に関する数量制限に関して						
<p>当社の現物取引における1注文当たりの限度額は以下の通りです。</p>					<p>当社の現物取引における1注文当たりの限度額は以下の通りです。</p>						
暗号資産 の種類※1	日本円の金額		暗号資産の数量		暗号資産 の種類※1	XRP	BTC	ETH	BCH	LTC	
	注文金額 ※2	呼値	注文数量※2、3	数量の単位							
XRP	500円～ 500万円	0.1円単位	10～70,000XRP	10XRP	日本円 の金額	500円～500万円					
BTC		1円単位	0.0001～5BTC	0.0001BTC		呼値	0.1円単位	1円単位		0.1円単位	
ETH			0.0001～150ETH	0.0001ETH	暗号資産 の数量		注文数量 ※2、3	10～	0.0001～	0.0001～	0.0001～
BCH		0.0001～200BCH	0.0001BCH	70,000XRP		5BTC		150ETH	200BCH	500LTC	
LTC		0.0001～500LTC	0.0001LTC	10XRP		0.0001BTC		0.0001ETH	0.0001BC	0.0001LTC	
<u>LINK</u>		1円単位	<u>0.001～5,000LINK</u>	<u>0.001LINK</u>							
<u>DOT</u>			<u>0.001～5,000DOT</u>	<u>0.001DOT</u>							
<p>※1 XRP、BTC 及び ETH 以外の暗号資産を取り扱う場合の限度額等は、別途定</p>											

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後	現行								
<p>※ 1 XRP、BTC、<u>ETH、BCH、LTC、LINK</u> 及び <u>DOT</u> 以外の暗号資産を取り扱う場合の限度額等は、別途定めるものとします。</p> <p>※ 2 上記の数量制限は、日本円の金額及び暗号資産の数量の両方が適用されます。売却時は 500 円未満でも発注が可能です。</p> <p>※ 3 注文に関する数量制限は、それぞれの通貨価値の変動によって定期的に見直されるため、当社ウェブサイトで明示します。</p> <p>5. 1. 4～5. 1. 12 ① 現行通り</p> <p>② 主要なカバー取引先に関する情報 当社がカバー取引を行う主な通貨ペア及び主要なカバー相手先は以下の通りです。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">主な通貨ペア※</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">主要なカバー相手先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">XRP/JPY、BTC/JPY、ETH/JPY、 <u>BCH/JPY、LTC/JPY、LINK/JPY</u>及び <u>DOT/JPY</u></td> <td style="text-align: center;">SBI アルファ・トレーディング 株式会社</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ 上記以外の通貨ペアを取り扱う場合は、別途提示するものとします。</p> <p>5. 1. 12 ③～5. 2. 3. ② 現行通り</p>	主な通貨ペア※	主要なカバー相手先	XRP/JPY、BTC/JPY、ETH/JPY、 <u>BCH/JPY、LTC/JPY、LINK/JPY</u> 及び <u>DOT/JPY</u>	SBI アルファ・トレーディング 株式会社	<p>めるものとします。</p> <p>※2 上記の数量制限は、日本円の金額及び暗号資産の数量の両方が適用されます。売却時は 500 円未満でも発注が可能です。</p> <p>※3 注文に関する数量制限は、それぞれの通貨価値の変動によって定期的に見直されるため、当社ウェブサイトで明示します。</p> <p>5. 1. 4～5. 1. 12 ① 省略</p> <p>② 主要なカバー取引先に関する情報 当社がカバー取引を行う主な通貨ペア及び主要なカバー相手先は以下の通りです。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">主な通貨ペア※</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">主要なカバー相手先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">XRP/JPY、BTC/JPY及びETH/JPY</td> <td style="text-align: center;">SBI アルファ・トレーディング株 式会社</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ 上記以外の通貨ペアを取り扱う場合は、別途提示するものとします。</p> <p>5. 1. 12 ③～5. 2. 3. ② 省略</p> <p>5. 2. 3. ③ 注文に関する数量制限に関して</p>	主な通貨ペア※	主要なカバー相手先	XRP/JPY、BTC/JPY及びETH/JPY	SBI アルファ・トレーディング株 式会社
主な通貨ペア※	主要なカバー相手先								
XRP/JPY、BTC/JPY、ETH/JPY、 <u>BCH/JPY、LTC/JPY、LINK/JPY</u> 及び <u>DOT/JPY</u>	SBI アルファ・トレーディング 株式会社								
主な通貨ペア※	主要なカバー相手先								
XRP/JPY、BTC/JPY及びETH/JPY	SBI アルファ・トレーディング株 式会社								

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後					現行							
5.2.3. ③ 注文に関する数量制限に関して 当社の現物取引における1注文当たりの限度額は以下の通りです。					当社の現物取引における1注文当たりの限度額は以下の通りです。							
暗号資産の 種類※1	日本円の金額		暗号資産の数量		暗号資産 の種類 ※1							
	注文金額※2	呼値	注文数量※2、3	数量の単位								
XRP	500円 ～500 万円	0.001円単位	10～70,000XRP	1XRP	日本円 の金額	注文金額※2	500円～500万円					
BTC		1円単位	0.0001～5BTC	0.0001BTC		呼値	0.001円 単位	1円単位		0.1円単位		
ETH			0.0001～150ETH	0.0001ETH	暗号資産 の数量 ※2、3			数量の 単位	10～	0.0001～	0.0001～	0.0001～
BCH		0.1円単位	0.0001～200BCH	0.0001BCH		70,000XRP	5BTC		150ETH	200BCH	500LTC	
LTC			0.0001～500LTC	0.0001LTC								
LINK		1円単位	0.001～5,000LINK	0.001LINK	1XRP	0.0001BT C	0.0001ET H	0.0001BC H	0.0001LTC			
DOT			0.001～5,000DOT	0.001DOT								
<p>※1 XRP、BTC、<u>ETH</u>、<u>BCH</u>、<u>LTC</u>、<u>LINK</u>及び<u>DOT</u>以外の暗号資産を取り扱う場合の限度額等は、別途定めるものとします。</p> <p>※2 上記の数量制限は、日本円の金額及び暗号資産の数量の両方が適用されます。このため、1XRPが30円のとときに、10XRPを売却しようとしても、500円未満となるため発注できません。</p>					<p>※1 XRP、BTC及びETH以外の暗号資産を取り扱う場合の限度額等は、別途定めるものとします。</p> <p>※2 上記の数量制限は、日本円の金額及び暗号資産の数量の両方が適用されます。このため、1XRPが30円のとときに、10XRPを売却しようとしても、500円未満となるため発注できません。</p>							

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後	現行															
<p>のため、1XRP が 30 円のときに、10XRP を売却しようとしても、500 円未満となるため発注できません。</p> <p>※3 注文に関する数量制限は、それぞれの通貨価値の変動によって定期的に見直されるため、当社ウェブサイトで明示します。</p> <p>5. 2. 4～13. 4⑤ 現行通り</p> <p style="text-align: right;">以上</p> <p>暗号資産の概要 追加</p> <p style="text-align: right;">以上</p> <p>チェーンリンク</p>	<p>※3 注文に関する数量制限は、それぞれの通貨価値の変動によって定期的に見直されるため、当社ウェブサイトで明示します。</p> <p>5. 2. 4～13. 4⑤ 省略</p> <p style="text-align: right;">以上</p> <p>暗号資産の概要 追加</p> <p style="text-align: right;">以上</p>															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="7" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; text-align: center;"><b>【基礎情報】</b></td> <td>日本語の名称</td> <td>チェーンリンク</td> </tr> <tr> <td>現地語の名称</td> <td>Chainlink</td> </tr> <tr> <td>呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ティッカーコード（シンボル）</td> <td>LINK</td> </tr> <tr> <td>発行開始（年、月、日）</td> <td>2017年9月19日</td> </tr> <tr> <td>時価総額（ドル基準、例： \$ 1.000.000）</td> <td>\$6,186,566,243</td> </tr> <tr> <td>時価総額（円基準、例： ¥100.000.000）</td> <td>646,953,978,326円</td> </tr> </table>	<b>【基礎情報】</b>	日本語の名称	チェーンリンク	現地語の名称	Chainlink	呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	-	ティッカーコード（シンボル）	LINK	発行開始（年、月、日）	2017年9月19日	時価総額（ドル基準、例： \$ 1.000.000）	\$6,186,566,243	時価総額（円基準、例： ¥100.000.000）	646,953,978,326円	
<b>【基礎情報】</b>		日本語の名称	チェーンリンク													
		現地語の名称	Chainlink													
		呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	-													
		ティッカーコード（シンボル）	LINK													
		発行開始（年、月、日）	2017年9月19日													
		時価総額（ドル基準、例： \$ 1.000.000）	\$6,186,566,243													
	時価総額（円基準、例： ¥100.000.000）	646,953,978,326円														

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
主な利用目的	<p>LINK の主な利用目的を以下に記載します。</p> <p>1. オラクルサービスを提供するノードオペレーターへの支払用途として使用することができます。</p> <p>2. オラクルサービスを提供するノードオペレーターの担保用途として使用することができます (2020年11月16日時点でChainlink Github 上で未実装であることを確認)。ノードオペレーターが適切なオラクルサービスを提供しない場合は、ペナルティとして、担保に供していたLINK が没収されます。</p> <p>参照先：  <a href="https://docs.chain.link/docs/faq">https://docs.chain.link/docs/faq</a>            (2020年12月2日)            参照先：BEOSIN プロジェクト紹介レポート P15 (2020年12月2日)</p>	
利用制限の有無	-	
海外流通の有無	あり	
国内流通の有無	なし	
店舗等の利用制限の有無	なし	
利用制限を行う者の属性	なし	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
利用制限の内容	-	
一般的な性格	<p>Chainlinkは分散型のオラクルネットワークで、スマートコントラクトが安全に外部のデータにアクセスできるようにすることを目的としており、LINKはオラクルサービスを提供するネットワークのノードオペレーターへの支払用途及びノードオペレーターの担保用途(2020年11月16日時点で未実装)として発行された通貨です。</p> <p>また、LINKはERC20規格のすべての関数とイベントを継承し、新しい関数「transferAndCall」を追加したERC677トークンとして発行されています*。</p> <p>この関数を呼び出すことで、トークンをコントラクトに転送し、提供された追加データでコントラクトをさらに呼び出すことができます。まず、トークンが転送されると、トークンコントラクトは受信コントラクトの関数「onTokenTransfer」を呼び出し、ERC223で設定された規則に従ってイベン</p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後	現行
<p>ト「Transfer」のトリガーとなります。</p> <p>言い換えると、ビジネスロジックの一部は、トークンの転送時に実行されます。例として、LINK コントラクトにトークン (ERC677 トークン) を転送すると、Chainlink のオラクルコントラクトの「onTokenTransfer」関数がトリガーされ、このオラクルコントラクトは対応するビジネスロジックを実行できるようになります。</p> <p>* 2020年12月2日時点において、ERC677 はEthereum のGithub 上においては新しいトークン規格として提案を行なっているステータス状況 (Draft) であり、BEOSIN 社によるスマートコントラクトセキュリティ調査報告書ではERC20として記載しておりますが、本審査資料においては便宜上 ERC677 として記載します。</p> <p>参照先： <a href="https://github.com/ethereum/EIPs/iss">https://github.com/ethereum/EIPs/iss</a></p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	<p>ues/677 (2020年12月2日) 参照先： <a href="https://docs.chain.link/docs/faq">https://docs.chain.link/docs/faq</a> (2020年12月2日) 参照先： <a href="http://blockchainers.org/index.php/2018/02/08/token-erc-comparison-for-fungible-tokens/">http://blockchainers.org/index.php/2018/02/08/token-erc-comparison-for-fungible-tokens/</a> (2020年12月2日)</p>	
法的性格（資金決済法第2条第5項第1号、第2号の別例：第1号）	第1号	
2号の場合：相互に交換可能な1号暗号資産の名称	－	
発行暗号資産に対する資産（支払準備資産）の有無及び名称	－	
発行者に対する保有者の支払請求権（買取請求権）	－	
支払請求（買取請求）による受渡資産	－	
発行者が保有者に付与するその他の権利	－	
発行者に対して保有者が負う義務	－	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
価値の決定	LINKの価値は、保有者間の自由売買によって決まります。しかし、本質的な価値は、Chainlinkが提供する分散型のオラクルサービスへの需要及びオラクルサービスを提供するノードオペレーターの数によって評価されると考えられます。	
交換（売買）の制限	-	
価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン	
保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開	
保有・移転記録の秘匿性	保有・移転の記録はパブリックブロックチェーンを採用している為、公開されています。しかし、移転記録上のトランザクションやアドレスから個人を特定することはできません。	
利用者の真正性の確認	利用者の真正性の確認方法として、LINKはEthereum上で発行されるERC677トークンであるため、Ethereumに依存します。Ethereumは秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データを特定することで真正性の確認が可能です。真正性の確認に必要な	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	公開鍵は、ランダムに生成された秘密鍵を secp256k1 による楕円曲線暗号を使用することで生成しています。	
価値移転記録の信頼性確保の仕組み	LINK は、Ethereum ブロックチェーン上に発行されている ERC677 トークンである為、価値移転記録の信頼性確保の仕組みは、Ethereum が採用している Proof of Work (以下、PoW) と呼ばれるコンセンサスアルゴリズムに依存します。PoW では、記録者はブロックリワードを得るために多大なコストを消費しており、記録者が合理的な価値移転記録を行うようなインセンティブ設計によって信頼性を確保しています。	
誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称 (アルトコインのみ)	ETH	
【取引単位・交換制限】	取引単位の呼称	1 LINK
	保有・移転記録の最低単位	18 桁まで分割することができます。
	交換可能な通貨または暗号資産	JPY
	交換制限	-
	制限内容	-

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	交換市場の有無	あり
<b>【連動する資産の有無等】</b>	価値が連動する資産等の有無	－
	価値連動する資産等の名称	－
	価値連動する資産等の内容	－
	価値連動する資産との交換の可否	－
	価値連動する資産との交換比率	－
	価値連動する資産との交換条件	－
<b>【付加価値】</b>	その他の付加価値（サービス）の有無	あり
	付加価値（サービス）の内容	Chainlink はスマートコントラクトと外部データのブリッジを担う分散型のオラクルネットワークです。Chainlink のオラクルネットワークを活用することで、スマートコントラクトを、市場データ、イベント、決済などの重要な外部データに接続することが可能となります。また、データフィードやその他の API を持っている人なら誰でも Chainlink ネットワークに参加して、取得したデータをスマートコントラクトに提供することができます。

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後	現行
<p>過去3年間の付加価値（サービス）の提供状況</p>	<p>過去3年間の付加価値の提供状況として、ChainlinkはEthereum Classic、Polkadot、Tezosなどの多数のブロックチェーンプロジェクトにオラクル機能を提供していることが確認できました。また、2020年11月24日時点でChainlinkネットワークで101のノードが稼働していることが確認できました。</p> <p>参照先：<a href="https://medium.com/ethereum-classic-labs/oracles-with-ethereum-classic-and-chainlink-15e4d1750d49">https://medium.com/ethereum-classic-labs/oracles-with-ethereum-classic-and-chainlink-15e4d1750d49</a> (2020年12月2日)</p> <p>参照先： <a href="https://polkadot.network/chainlink-reaches-milestone-with-polkadot/">https://polkadot.network/chainlink-reaches-milestone-with-polkadot/</a> (2020年12月2日)</p> <p>参照先： <a href="https://coinpost.jp/?p=148338">https://coinpost.jp/?p=148338</a> (2020年12月2日)</p> <p>参照先： <a href="https://market.link/search/nodes">https://market.link/search/nodes</a> (2020年11月24日)</p>

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
【発行状況】	発行者	SmartContract Chainlink Limited SEZC
	発行主体の名称	SmartContract Chainlink Limited SEZC
	発行主体の所在地	ケイマン諸島 (Strathvale House, 90 North Church Street, George Town, KY1-1102, Grand Cayman, Cayman Islands) 参照先： <a href="https://xangle.io/project/LINK/full-disclosure">https://xangle.io/project/LINK/full-disclosure</a> (2020年12月2日)
	発行主体の属性等	民間企業
	発行主体概要	SmartContract Chainlink Limited SEZC は、外部のデータソースとパブリックブロックチェーンのブリッジを担うオラクルの提供を目的に設立されました。同社は、スマートコントラクトが外部データを取得する際に、その正確性がデータの供給元の信頼に依存するという「オラクル問題」を分散型のオラクルネットワークである Chainlink の構築によって解決することを目指しています。また、同社は Chainlink の開発のため、2017年9月に ICO を実施し、約 3,200 万ドルの資金調達を実施しています。

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	<p>参照先： <a href="https://messari.io/asset/chainlink/profile">https://messari.io/asset/chainlink/profile</a> (2020年12月2日)</p>	
発行暗号資産の信用力に関する説明	<p>LINKの通貨としての信用力は、LINKがEthereumブロックチェーン上に発行されているERC677トークンであるため、Ethereumが採用しているProof of Work(以下、PoW)と呼ばれるコンセンサスアルゴリズムに依存します。PoWでは、記録者はブロックリワードを得るために多大なコストを消費しており、記録者が合理的な価値移転記録を行うようなインセンティブ設計によって信頼性を確保しています。</p>	
発行方法	<p>LINKはERC677トークンとして、2017年9月19日のICO時点で1,000,000,000LINKがEthereumブロックチェーン上で全量発行されました。</p> <p>参照先： <a href="https://xangle.io/project/LINK/full-disclosure">https://xangle.io/project/LINK/full-disclosure</a> (2020年12月2日)</p> <p>参照先： <a href="https://messari.io/asset/chainlink/profile">https://messari.io/asset/chainlink/profile</a> (2020年12月2日)</p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	参照先： <a href="https://coinmarketcap.com/currencies/chainlink/">https://coinmarketcap.com/currencies/chainlink/</a> (2020年12月2日)	
発行可能数	1,000,000,000 LINK	
発行可能数の変更可否	変更不可能	
変更方法	なし	
変更の制約条件	-	
発行済み数量	1,000,000,000 LINK	
今後の発行予定または発行条件	なし	
過去3年間の発行状況	2017年9月19日に全量発行済みとなっています。 参照先： <a href="https://messari.io/asset/chainlink/profile">https://messari.io/asset/chainlink/profile</a>	
過去3年間の発行理由	ICOによる資金調達を目的として発行されています。	
過去3年間の償却状況	なし	
過去3年間の償却理由	-	
発行者の行う発行業務に対する監査の有無	あり	
監査を実施する者の氏名または名称	Beosin (Chengdu LianAn) Technology Co. Ltd.	
直近時点で行われた監査年月日	2020/5/21	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	直近時点における監査結果	Beosin (Chengdu LianAn) Technology は、コーディング規約、セキュリティ、ビジネスロジックなどの側面からスマートコントラクトの監査を行いました。結果、Chainlink のコントラクトに問題がないことが確認できました。 参照先：BEOSIN スマートコントラクトセキュリティ調査報告書（2020年12月2日）
【価値移転記録台帳に係る技術】	ブロックチェーン技術の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その名称	—
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	—
	価値移転認証の仕組み	LINK は、Ethereum ブロックチェーン上に発行されている ERC677 トークンである為、価値移転認証の仕組みは、Ethereum が採用している PoW に依存します。PoW では、送信者によって署名が行われたトランザクションを記録者が受け取ります。記録者は、署名の正当性や、

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	トランザクションデータに問題がないかのチェックを行い、ブロックに格納されます。その後、インセンティブを目的とした記録者によってブロックチェーンへの記録が行われます。	
価値記録公開/非公開の別	公開	
保有者個人データの秘匿性の有無	なし	
秘匿化の方法	—	
価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	<p>LINK は、Ethereum ブロックチェーン上に発行されている ERC677 トークンである為、価値移転ネットワークの信頼性は、Ethereum に依存します。2020年11月24日時点で、Ethereum の記録者は約3,975人確認することができ、各国に広く分散していることが確認できます。価値移転ネットワークは分散性が高い程に可用性が高まり、インセンティブ設計に基づいた合理的な判断が行われる可能性が高いと判断できます。</p> <p>参照先：  <a href="https://etherscan.io/nodetracker">https://etherscan.io/nodetracker</a>            (2020年11月24日)。</p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
<b>【価値移転の記録者】</b>	記録者の数	LINK は、Ethereum ブロックチェーン上に発行されている ERC677 トークンである為、Ethereum の記録者について確認をした結果、約 3,975 人であることが確認できました。 参照先： <a href="https://etherscan.io/nodetracker">https://etherscan.io/nodetracker</a> (2020年11月24日)
	記録者の分布状況	LINK は、Ethereum ブロックチェーン上に発行されている ERC677 トークンである為、記録者の分布状況は、Ethereum に依存します。Ethereum の記録者は世界各国に分散しており、主な分布状況は米国 30.11%、ドイツ 17.67%、中国 11.00% であることが確認できます。 参照先： <a href="https://etherscan.io/nodetracker">https://etherscan.io/nodetracker</a> (2020年11月24日)
	記録者の主な属性	LINK は、Ethereum ブロックチェーン上に発行されている ERC677 トークンである為、Ethereum の記録者について確認をした結果、ハードウェアを含む必要な要件を満たすことで誰でも記録者としてネットワークに参加することができます。

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	<p>しかし、記録者の特定は困難であるといえます。</p> <p>参照先： <a href="https://docs.ethhub.io/using-ethereum/mining/">https://docs.ethhub.io/using-ethereum/mining/</a> (2020年12月2日)</p>	
記録の修正方法	LINKは、Ethereumブロックチェーン上に発行されているERC677トークンである為、記録についてはEthereumに依存します。基本的には、トランザクションが記録者によって承認されると修正を行うことはできません。	
記録者の信用力に関する説明	LINKは、Ethereumブロックチェーン上に発行されているERC677トークンである為、記録者の信用力はEthereumに依存します。記録者は誰でもなることができ、広く分散している為、ネットワークに参加する個々の信用力ではなく全体の信用力から説明します。記録者の一部が結託をして悪意ある判断をする可能性は否定できませんが、合理的な判断をすることによって得られるインセンティブが大きくなるように設計されている為、大多数の記録者が結託し悪意ある判断を行い、51%攻撃等を行う可能性は極めて低	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
		く、信用力を維持しているといえます。
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	LINK は、Ethereum ブロックチェーン上に発行されている ERC677 トークンである為、価値移転の管理状況に関する監査は、Ethereum に依存します。
	監査を実施する者の氏名または名称	-
	直近時点で行われた監査年月日	-
	その監査結果	-
	(統括者に関する情報)	-
	記録者の統括者の有無	なし
	統括者の名称	-
	統括者の所在地	-
	統括者の属性	-
	統括者の概要	-
【暗号資産に内在するリスク】	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	LINK は、Ethereum ブロックチェーン上に発行されている ERC677 トークンである為、価値移転ネットワークは Ethereum が採用している PoW に依存します。PoW では、悪意を持った記録者が 51%以上存在する場合は、正常に価値移転の記録がなされない可能性があります。但し、ノ

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	<p>ードは2020年11月24日時点で全世界に約3,975存在しており各国に分散している為、51%を支配するのは非現実的であるとともに、相応のコストが発生します。また、過去に価値移転記録の改竄などの不正は見つけることができませんでした。</p> <p>参照先： <a href="https://etherscan.io/nodetracker">https://etherscan.io/nodetracker</a> (2020年11月24日)</p>	
保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	<p>LINKは、Ethereumブロックチェーン上に発行されているERC677トークンである為、保有情報暗号化技術はEthereumに依存します。仮想通貨の保有情報はSHA256によって予測困難な擬似乱数関数として設計されており、第三者による特定は極めて困難であると考えられます。しかし、保有情報の証明に必要な秘密鍵の管理は保有者に依存しており、第三者に秘密鍵自体を知られた場合は、利用者になりすまして送付指示を行うことができます。</p> <p>参照先： <a href="https://github.com/ethereum/wiki/wiki">https://github.com/ethereum/wiki/wiki</a></p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	<p>i/%5BJapanese%5D-White-Paper (2020年12月2日)</p> <p>参照先： <a href="https://ethereum.github.io/yellowpaper/paper.pdf">https://ethereum.github.io/yellowpaper/paper.pdf</a> (2020年12月2日)</p>	
発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	<p>発行者が破綻した場合であっても基本的にLINKはEthereumブロックチェーン上に残り正常に稼働します。発行者が破綻した際の価格への影響は、破綻時のプロジェクトの進捗具合によります。</p> <p>Chainlinkネットワークが機能しなければ、LINKの用途も生まれられないため、価格への影響は大きいと考えられます。但し、SmartContract Chainlink Limited SEZCが開発を主導するChainlinkネットワークは既に多数のブロックチェーンプロジェクトに機能統合がされており、世界最大規模の分散型オラクルネットワークにまで成長していることから破綻が起きる可能性は低いと思われます。</p>	
価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	<p>LINKは、Ethereumブロックチェーン上に発行されているERC677トークンである為、価値移転記録者はEthereumに依存します。価値移転記録者の全てが同時</p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
		<p>に破綻した場合は、価値移転の記録が停止し、価値が喪失する可能性があります。ただし、ノードは各国に分散しており、全てが同時に破綻する可能性は極めて低いと考えられます。また、ノード数は2020年11月24日時点で全世界に約3,975存在しているため、価値移転記録者の一部が破綻した場合であっても、価値移転作業に影響はないと考えられます。</p> <p>参照先： <a href="https://etherscan.io/nodetracker">https://etherscan.io/nodetracker</a> (2020年11月24日)</p>
	<p>移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項</p>	<p>LINKは、Ethereumブロックチェーン上に発行されているERC677トークンである為、価値移転記録はEthereumが採用しているPoWに依存します。PoWは、1秒あたりに処理可能なトランザクション数(TPS)が約15TPSとなっています。これを大きく上回るトランザクションが発生した場合、記録処理が追い付かなくなり移転の記録が遅延します。実際に、2017年末にCryptoKittiesというアプリケーションがローンチされた際にトラン</p>

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後	現行
<p>ザクションが大量に発生したために、移転記録の遅延が頻発しました。このように Ethereum は現状最も多くのユーザーが参加するネットワークの1つであり、アプリケーション数も多いことから遅延が発生する可能性は他のネットワークよりも高いと考えられます。しかし、解決策として Ethereum2.0 構想の開発が進められており、コンセンサスアルゴリズムを Proof of Stake (以下、PoS) へ移行し、Sharding 等の記録処理能力を高めるアップデートによって性能を向上させる為に日々開発が進められていることが確認できます。また、2020年12月1日には Phase 0 がローンチされています。</p> <p>参照先：  <a href="https://www.bbc.com/news/technology-42237162">https://www.bbc.com/news/technology-42237162</a> (2020年11月24日)</p> <p>参照先：  <a href="https://media.consensys.net/state-of-ethereum-protocol-1-d3211dd0f6">https://media.consensys.net/state-of-ethereum-protocol-1-d3211dd0f6</a>  (2020年11月24日)</p> <p>参照先：  <a href="https://github.com/ethereum/eth2.0-">https://github.com/ethereum/eth2.0-</a></p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	<p>specs (2020年11月24日)</p> <p>参照先：  <a href="https://blog.ethereum.org/2020/11/04/eth2-quick-update-no-19/">https://blog.ethereum.org/2020/11/04/eth2-quick-update-no-19/</a> (2020年11月24日)</p> <p>参照先：<a href="https://beaconscan.com/">https://beaconscan.com/</a>  (2020年12月2日)</p>	
プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	<p>LINKには、過去に発生したプログラムの不具合は存在しません。また、BEOSIN社がEthereum上で発行されているLINKのスマートコントラクトの監査を行った結果、LINKのスマートコントラクトには既知の脆弱性は見つかりませんでした。</p> <p>参照先：BEOSIN スマートコントラクトセキュリティ調査報告書 (2020年12月2日)</p>	
過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	<p>LINKには、過去に発生したプログラムの不具合は存在しません。但し、Ethereumブロックチェーンは、過去にDAO事件と呼ばれるスマートコントラクトの脆弱性をついたハッキング事件が発生しました。このハッキングによって大量のETHが流出することとなり、それを無効とする為にEthereum Foundationはハードフ</p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	<p>オークを実施しました。ハードフォークに対してコミュニティ内で意見が分かれ、結果としてEthereum Classic (ETC) が誕生しました。</p>	
非互換性のアップデート（ハードフォーク）の状況	LINKは、Ethereumブロックチェーン上に発行されているERC677トークンである為、非互換性アップデートはEthereumに依存します。	
今後の非互換性アップデート予定	<p>LINKは、Ethereumブロックチェーン上に発行されているERC677トークンである為、非互換性アップデートはEthereumに依存します。LINK自体の非互換性アップデートに関する情報は確認できませんでした。Ethereum自体の非互換性アップデートに関しては、Ethereum2.0の構築フェーズにおいて行われる可能性があります。詳細は現在公表されていません。</p> <p>参照先：  <a href="https://github.com/ethereum/wiki/wiki/Sharding-roadmap#phase-3-light-client-state-protocol">https://github.com/ethereum/wiki/wiki/Sharding-roadmap#phase-3-light-client-state-protocol</a> (2020年11月24日)</p> <p>参照先：</p>	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後	現行
<p>正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴</p>	<p><a href="https://docs.ethhub.io/ethereum-roadmap/ethereum-2.0/eth-1.0-to-2.0-migration/">https://docs.ethhub.io/ethereum-roadmap/ethereum-2.0/eth-1.0-to-2.0-migration/</a> (2020年11月24日)</p> <p>BC/DLTの安定性として、LINKはEthereumブロックチェーン上で発行されているERC677規格に基づいたトークンである為、Ethereumブロックチェーンについて評価します。2020年11月11日、コンセンサスアルゴリズムに関連するバグによって一時的に約30ブロックの間スプリットが発生しましたが、翌日にはソースコードの修正が完了しています。この際、一部のサービスプロバイダが一時的にサービス提供を停止したことが確認できました。</p> <p>Ethereumによる発信や外部ニュースに基づき、2020年5月24日から2020年11月24日までを調査したところ、上記を除いてはEthereumブロックチェーン上で利用者に影響を及ぼす障害はなく、安定した稼働が確認できました。</p> <p>Geth security release : <a href="https://blog.ethereum.org/2020/11/12/geth_security_release/">https://blog.ethereum.org/2020/11/12/geth_security_release/</a> (2020年11月</p>

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	24日) Infura Mainnet Outage Post-Mortem 2020-11-11 : <a href="https://blog.infura.io/infura-mainnet-outage-post-mortem-2020-11-11/">https://blog.infura.io/infura-mainnet-outage-post-mortem-2020-11-11/</a> (2020年11月24日)	
<b>【流通状況】</b>	価格データの出所	出所 : Cryptocurrency Market Capitalizations URL : <a href="https://coinmarketcap.com/ja/">https://coinmarketcap.com/ja/</a>
	1取引単位当たり計算単価 (ドル基準、例 : \$ 1,000,000)	\$15.75
	1取引単位当たり計算単価 (円基準、例 : ¥100,000,000)	¥1,647.22
	ドル/円計算レート 2020年1月17日基準	104.58円/ドル 参照先 : <a href="http://www.murc-kawasesouba.jp/fx/past/index.php?id=201124">http://www.murc-kawasesouba.jp/fx/past/index.php?id=201124</a>
	四半期取引数量 (協会加盟会員合計、現物、単位は百万円)	0
備考	-	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
ポルカドット/ドット		
<b>【基礎情報】</b>	日本語の名称	ポルカドット/ドット
	現地語の名称	Polkadot / DOT
	呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	Polkadot
	ティッカーコード（シンボル）	DOT
	発行開始（年、月、日）	2020年5月26日（メインネットローンチ日）
	時価総額（ドル基準、例： \$ 1,000,000）	\$37,819,428,000
	時価総額（円基準、例： ¥100,000,000）	¥4,122,293,000,000
	主な利用目的	ステーキング、ガバナンスへの参加
	利用制限の有無	なし
	海外流通の有無	あり
	国内流通の有無	なし
	店舗等の利用制限の有無	なし
	利用制限を行う者の属性	－
	利用制限の内容	－
	一般的な性格	固有のブロックチェーンを持つアルトコイン
法的性格（資金決済法第2条第5項）	第1号	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
第1号、第2号の別 例：第1号)		
2号の場合：相互に交換可能な1号 暗号資産の名称	なし	
発行暗号資産に対する資産（支払準備資産）の有無及び名称	なし	
発行者に対する保有者の支払請求権（買取請求権）	なし	
支払請求（買取請求）による受渡資産	なし	
発行者が保有者に付与するその他の権利	なし（ただし、保有しているとステーキングへの参加が可能）	
発行者に対して保有者が負う義務	なし	
価値の決定	保有者間の自由売買による	
交換（売買）の制限	なし	
価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン	
保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開	
保有・移転記録の秘匿性	公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録	
利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転デー	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	タと特定し、記帳する。	
	価値移転記録の信頼性確保の仕組み	Nominated Proof of Stake (NPoS)に則ってトークンによる投票力を持つ記録者たちが記録を管理している。
	誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称 (アルトコインのみ)	なし
【取引単位・交換制限】	取引単位の呼称	DOT
	保有・移転記録の最低単位	0.0000000001DOT(=1 Planck)
	交換可能な通貨または暗号資産	全て可
	交換制限	なし
	制限内容	なし
	交換市場の有無	あり
【連動する資産の有無等】	価値が連動する資産等の有無	なし
	価値連動する資産等の名称	-
	価値連動する資産等の内容	-
	価値連動する資産との交換の可否	-
	価値連動する資産との交換比率	-
	価値連動する資産との交換条件	-

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
<b>【付加価値】</b>	その他の付加価値（サービス）の有無	あり
	付加価値（サービス）の内容	ネイティブトークンである DOT をステーキングすることにより、コンセンサスアルゴリズムに参加し、報酬を得ることが可能
	過去3年間の付加価値（サービス）の提供状況	”下記サイトで公開されている <a href="https://polkadot.subscan.io/">https://polkadot.subscan.io/</a> ”
<b>【発行状況】</b>	発行者	プログラムによる自動発行
	発行主体の名称	－
	発行主体の所在地	－
	発行主体の属性等	－
	発行主体概要	－
	発行暗号資産の信用力に関する説明	多数かつ分散している記録者による価値移転情報の認証と、ビットコインと同水準の暗号化技術の採用により信用力が担保される。
	発行方法	プログラムによる自動発行。ステーキングされている DOT の数量に応じて、新規発行数量が自動調整される仕組みが実装されている。
発行可能数	上限なし	
発行可能数の変更可否	上限の規定がないため該当せず	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
変更方法	-	
変更の制約条件	-	
発行済み数量	1,072,729,710DOT (うち流通量は937,205,594DOT)	
今後の発行予定または発行条件	Polkadot のリレーチェーン、パラチェーンそれぞれにステーキングされる DOT と、流動的な DOT 数量の比率が 3:2:1 となることが目標とされている。なお、パラチェーンとの接続が完了していない現時点では、75%の DOT が Polkadot のリレーチェーンに対してステークされることが目標となっている。	
過去3年間の発行状況	1,072,729,710DOT (うち流通量は937,205,594DOT)	
過去3年間の発行理由	ICO、ステーキング報酬	
過去3年間の償却状況	なし	
過去3年間の償却理由	-	
発行者の行う発行業務に対する監査の有無	-	
監査を実施する者の氏名または名称	-	
直近時点で行われた監査年月日	-	
直近時点における監査結果	-	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
【価値移転記録台帳に係る技術】	ブロックチェーン技術の利用の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型ブロックチェーン
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その名称	—
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	—
	価値移転認証の仕組み	台帳形式。価値移転認証を求める暗号データを記録者が解読し、利用者および移転内容の真正性を確認して価値移転記録台帳の記録を確定する。
	価値記録公開/非公開の別	公開
	保有者個人データの秘匿性の有無	あり
	秘匿化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化
価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	オープンネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）および記録者による多数決と承認者による確認を経て移転記録が認証される仕組みを用い、多数の記録者のネットワークへの参加を得ることによって、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保する。	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
【価値移転の記録者】	記録者の数	”297 (2021年5月12日現在) https://polkadot.subscan.io/”
	記録者の分布状況	アジア、ヨーロッパ、アメリカなど。
	記録者の主な属性	報酬を得るためにステーキング活動を行っているステーキングプール及びプール参加者である
	記録の修正方法	ブロックに記録された後は修正・変更は行われない
	記録者の信用力に関する説明	記録者による多数の合意がなければ不正が成立せず、記録者が十分に多数であることによって、個々の記録者の信用力に頼らず、記録保持の仕組みそのものを信用の基礎としている。
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	なし
	監査を実施する者の氏名または名称	—
	直近時点で行われた監査年月日	—
	その監査結果	—
	(統括者に関する情報)	
	記録者の統括者の有無	なし
	統括者の名称	—
	統括者の所在地	—
統括者の属性	—	

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
統括者の概要	-	
【暗号資産に内在するリスク】	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	Nominated Proof of Stake (NPoS) コンセンサスアルゴリズムの下では、記録者が結託して1/3以上の投票力を獲得した場合、妨害することが可能であるが、記録者が十分に分散している状況では妨害は発生しにくいものと考えられる。
	保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	第三者に秘密鍵を知られた場合には、利用者になりすまして送付指示を行うことができる。
	発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	なし
	価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	価値移転記録者の全てが同時に破綻した場合は、価値移転の記録が停止し、価値が喪失する可能性があるものの、記録者が十分に分散している状況ではそのような状況は発生しにくいものと考えられる。
	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	なし
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	未検出のプログラムの脆弱性やプログラム更新などにより新たに生じた脆弱

## 暗号資産の売買等に関するご説明(契約締結前交付書面) 新旧対照表

(下線部分は変更箇所)

改定後		現行
	性を利用し、データが改竄され、価値移転の記録が異常な状態に陥る可能性がある。	
	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	なし
	非互換性のアップデート（ハードフォーク）の状況	なし
	今後の非互換性アップデート予定	なし
	正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	なし
<b>【流通状況】</b>	価格データの出所	”出所：CoinMarketCap URL:https://coinmarketcap.com/”
	1取引単位当たり計算単価（ドル基準、例：\$1,000,000）	\$40.31
	1取引単位当たり計算単価（円基準、例：¥100,000,000）	¥4,390.84
	ドル/円計算レート 2020年1月17日基準	108.9円/ドル
	四半期取引数量（協会加盟会員合計、現物、単位は百万円）	なし
備考	なし	

以上